

研究のテーマ

インドネシアのイスラム改革団体ムハマディヤの研究

研究概要

ムハマディヤの研究は、近年とみに進展しつつある。創立者のアフマド・ダフランや中部ジャワのジョクジャカルタにある中央本部に関する研究は進み、多くの点が解明されてきた。しかしながら、地方支部についての研究は、まだ殆どなされていない。したがって、ムハマディヤ運動における支部活動の実態究明は、焦眉の急と言えよう。

私は過去4回のインドネシア調査により、ムハマディヤに関するインドネシア語の史料はかなり入手してきた。けれども、オランダ語の史料は、まだ、皆無である。なぜなら、オランダ語の史料の大半はオランダに存在している事による。しかし、最近、少しずつではあるが、マイクロフィルム化によって、その1部が日本でも所蔵されるようになった。今回、そのうちの一つ Koloniaal Verslag (植民地文書) の調査研究とコピー入手を、東京の国立国会図書館とアジア経済研究所において行った。また、アジア経済研究所にはコーネル大学(アメリカ)所蔵の1950年～60年代にインドネシアで発行された雑誌のマイクロフィルムもあり、その一部をコピーした。

研究所研究講演会

1990年度および1991年度の研究所講演会を下記のように行い、市民にも公開した。

記

日 時 1991年1月26日(土) 10時40分～12時00分
講 演 アンコールワットについて
講 師 上智大学教授、上智大学アジア文化研究所長 石澤良昭先生
会 場 別府大学3号館地下ホール

日 時 1991年11月13日(水) 10時40分～12時10分
講 演 インド祇園精舎の発掘調査とその成果
講 師 関西大学教授 網干善教先生
会 場 別府大学3号館地下ホール